

令和4年度 広島市第1層生活支援コーディネーター 実践事例集



(写真) 令和4年度発行 ひろしまえとこ通信より

はじめに

広島市では、市民の誰もが多様な担い手として、それぞれに役割を持ち、お互いに支え合う地域づくりを推進するために、平成29年度から実施されている生活支援体制整備事業において、市・区社会福祉協議会に生活支援コーディネーターが配置されています。

生活支援コーディネーターは、地域の方々がいつまでも自分らしく輝ける社会参加の場の充実や、医療・介護サービスだけでは補いにくい「ちょっとした困りごと」を住民同士で解消していける“地域づくり”を応援しています。例えば、地域団体やボランティア、民間企業、社会福祉法人、NPO など、様々な団体と協力して、サロンなどの通いの場づくりやゴミ出しや草取り等の困りごと支援を行う体制づくりのお手伝いをさせていただいています。

それぞれの地域の「あったらいいな」や「できたらいいな」を地域の皆さんと一緒に考え、その地域ならではの「地域づくり」を応援します。

本実践事例集は、市・区生活支援コーディネーターによる地域支援の実践をまとめ、役割を見える化し、共有することを目的に作成しました。

生活支援コーディネーターによる地域活動支援 ～ 一事例 ～

様々な「人」と「人」、「思い」と「思い」をつないで、
「地域のたすけあい」のための「あったらいいな」「できたらいいな」の
応援をしています！



困りごと支援グループの立ち上げ・
活動の充実に向けた意見交換会・研修会の開催



新たな形の「つながる」をお手伝い



各地域の支え合いの取組を会議で共有



企業等の社会貢献と地域活動の結び付け

目次

《生活支援コーディネーターの紹介・主な役割》 1～ 2

《生活支援コーディネーターの実践事例》 3～26

中区：神崎学区健康フェア～神崎学区社協のやりたい思いを形に～ 3

東区：東区区域協議体～「ひがしおこのみネット」の取組～ 5

東区：新たな担い手との関わり～「思い」を「形」に～ 7

南区：南区区域協議体～住民の求める活動を引き出すために～ 9

西区：多世代交流の場づくり～担い手探し～② 11

安佐南区：生活支援実施団体とともに考える 地域で取組む移動支援 13

安佐南区：広島市住民主体型生活支援訪問サービス「びしゃもん台絆くらぶ」
支援調整会議の在り方について多世代交流の場づくり 15

安佐北区：「 ケア 」を世の光に！プロジェクト始動
～安佐北区区域協議体の取組（経過報告）～ 17

安芸区：きっかけ講座～地域編～
「困った時はお互いさま！！～声かけられ上手になってみませんか～」 19

佐伯区：佐伯区区域協議体～佐伯区内の“ええとこ”を共有しよう！～ 21

市：“今だからこそできる” 広島市における生活支援体制整備事業の推進 23

市：もったいないネットワークの設立
～人と人、物と人、思いと思いをつなげる協働の取組～ 25

《区社会福祉協議会や地区社会福祉協議会社協の取組紹介》 27～28

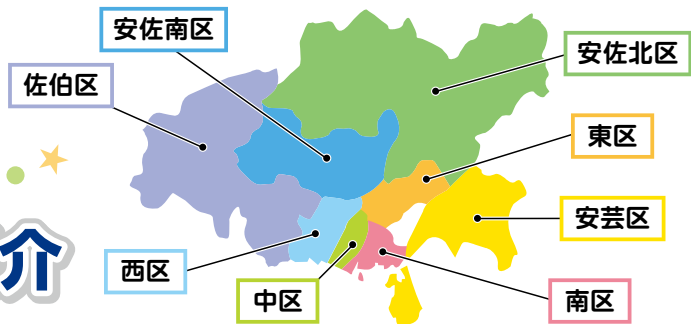
佐伯区：地域活動への参加のきっかけづくり
～ふらっと、かようワークショップ～ 27

西区：子ども達と共に未来を描く！～井口地区龍神山壁画プロジェクト～ 28

南区：健康フェアの開催～地域の声に寄り添った地域づくりを目指して～ 28

各区

生活支援 コーディネーターの紹介



中区	まつだ じろう 松田 治郎 担当地区: 基町、幟町、竹屋、千田、吉島、広瀬、本川 今年度より新しく生活支援コーディネーターになりました。 地域のみなさんが、自分らしく暮らせる地域づくりのお手伝いをさせていただきます。		かわなか まお 川中 真央 担当地区: 白島、袋町、中島、吉島東、神崎、舟入、江波 中区の生活支援コーディネーター3年目になりました。引き続き、地域のみなさん、関係機関のみなさんと一緒に地域づくりについて考えていきます。
東区	ささき えいこ 佐々木 詠子 担当地区: 福田、馬木、上温品、温品、東浄、戸坂城山、戸坂 コーディネーター2年目になりました。より元気に、フットワーク軽く皆さまに会いに行きますので、よろしくお願いいたします。		はぎはら たかゆき 萩原 貴之 担当地区: 牛田新町、牛田、早稲田、中山、尾長、矢賀 凡事徹底! 地域の皆様と一緒に、小さなことからひとつひとつ積み重ねていきたいと思っています。よろしくお願いいたします。
南区	くろせ ゆうこ 黒瀬 裕子 担当地区: 荒神、大州、青崎、向洋新町、黄金山、仁保、楠那、宇品東、宇品西、元宇品、似島 日々の暮らしのなかにあるつながりを大切に、つながり続けることのお手伝いができればと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。		いずみ さや 泉 咲綾 担当地区: 段原、比治山、皆実、翠町、大河 今年度より新しく生活支援コーディネーターの担当になりました。地域の皆さまに教えていただきながら、一緒に地域づくりをしていきたいと思っています。よろしくお願いいたします。
西区	みすみ きょうこ 三角 京子 担当地区: 己斐、己斐上、己斐東、庚午、草津・庚午南、鈴が峰、井口台、井口、井口明神 「ここに帰ってきたい」と子ども達が思えるような地域づくりを、皆さんと一緒に楽しく取り組みたいです。やってみたいこと、ぜひお声がけください。		よしむら しょうご 吉村 翔吾 担当地区: 大芝、三篠、天満、観音、南観音、山田、古田、古田台、高須 コーディネーターは2年目になります。「昨年の吉村とは違うな!!」と思ってもらえるよう、がんばります。
安佐南区	かくだ とおる 角田 徹 担当地区: 毘沙門台、安東、古市、大町、上安、安北、安、安西、戸山、伴南、大塚・伴、伴東 一日一笑 皆さまの近くにある笑顔のおすそわけを頂きにお伺いさせていただきます。		おだ ひびき 尾田 響 担当地区: 梅林、八木、川内、緑井、中筋、東野、原南、原、祇園、山本、春日野、長束、長束西 今年度より生活支援コーディネーターになりました。皆さまからすてきなお話、お困りごとをお聞かせいただければと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

安佐北区	わた なべ はるか 渡部 遥 担当地区：区全域 今年度より生活支援コーディネーターとなりました。 みなさん、どうぞよろしくお願いいたします！		か のう ゆう き 加納 裕輝 担当地区：区全域 キノコタケノコ元気の子！安佐北区でお会いしましょう！！
安芸区	やまもと あや か 山本 彩加 担当地区：船越、中野、中野東、阿戸 今年度より生活支援コーディネーターとなりました。皆さまが、暮らしやすい地域について一緒に考えていきます。どうぞよろしくお願いいたします！		おかもと まり こ 岡本 真理子 担当地区：畑賀、瀬野、みどり坂、矢野南、矢野町 大切にしている言葉は「紡ぐ」です！地域の皆様からの声を紡ぎ、つなぎ合わせながら、地域の皆様と様々なことに取り組んでいきたいと思えます。よろしくお願いいたします！
佐伯区	お ざわ ふみ え 小澤 文恵 担当地区：区全域 地域の皆さんの日々の活動があつてこそ、安全・安心で楽しい行事のあるまちで暮らせていることを実感しています。皆さんの目指すまちづくりのお役に立てるよう、取り組んでいきたいです！		い な だ ゆ か こ 稲田 有香子 担当地区：区全域 今年度より新しく生活支援コーディネーターになりました。 地域の声を大切に、地域のがんばりを応援します！
市	ふじもと しず か 藤本 静香 担当地区：市全域 今年度から担当になりました。人と人とのつながりを大切に、地域のみなさんと一緒にどんなことも楽しく、笑顔で取り組んでいきたいと思えます！よろしくお願いいたします！		はこざき たい き 箱崎 太貴 担当地区：市全域 好きな言葉は「出会いは一瞬、出会えば一生！！」地域のみなさんとの出会いを大切に、楽しく地域づくりをお手伝いさせていただきます！！

活動の合言葉

「つくる・はぐくむ・つなげる」

通いの場

見守り

助け合い

3つの活動のつながりを意識して、地域活動の充実をお手伝いします！！



広島市における「生活支援コーディネーター」の主な役割

① 地域のニーズと資源の把握及び情報発信

- 区域・市域での地域課題の把握
- 把握した資源や地域の好事例の情報発信

② 地域資源・サービスの創出・発掘及び充実のための支援

- 介護予防・居場所などの通いの場【ふれあいいきいきサロン、地域高齢者交流サロン・地域介護予防拠点整備促進事業 等】

- 見守り活動【近隣ミニネットワーク、高齢者地域支え合い事業 等】

- 地域の困りごと支援【ボランティアバンク、住民主体型生活支援訪問サービス 等】

③ 地域づくりに関わる関係者のネットワーク化

- 協議体の設置・運営（地域の「あったらいいな」の共有の場）
- 地縁組織やNPO・企業等の多様な主体との連携（企業の社会貢献等含む）

神崎学区健康フェア

～神崎学区社協のやりたい思いを形に～

事例概要

「ふれあい神崎」の活動を地域住民に周知してもらうために、神崎学区社会福祉協議会（以下、神崎学区社協）と江波地域包括支援センター、中区地域支えあい課地区担当保健師と連携し取組んだ事業。

事例における生活支援コーディネーターの役割

- 地区社協活動拠点活性化支援事業、住民主体型生活支援訪問サービスの団体支援。
- 地域と専門職間の調整。



取組の背景・課題

神崎学区社協は令和元年 7 月より広島市住民主体型生活支援訪問サービス、令和3年4月より地区社協活動拠点活性化支援事業における困りごと相談所を開始し、「ふれあい神崎」と銘打ち、住民主体の活動に力を入れている。

令和 4 年度に入り、相談件数が減少してきたため、「地域の中で困っている方がいないか掘り起こしがしたい」、「困っている方やサービスを受けたい方がいないのであればいいが、うまく繋がっていないのであれば必要な人たちに届くような仕組みを考えないといけない」という声があがり、神崎学区社協の思いを形にするために江波地域包括支援センター、中区地域支えあい課と一緒に検討をした。



取組の目的・ねらい

- 地域住民に気軽に相談できる場所が地域にあることを認知してもらう。
- ふれあい神崎の活動をより多くの住民に知ってもらう機会を作る。
- 住民目線での取組みに対して江波地域包括支援センター、中区地域支えあい課、中区社会福祉協議会が協力連携し、住民主体の活動を応援する。



内容・プロセス

- 令和 4 年 5 月 神崎学区社協執行役員会の中で生活支援活動の充実を図るための重点課題として①ボランティア活動者の充実、②地域資源等の情報発信機能の充実、③困りごと相談所拠点活動の充実、④生活支援訪問サービス活動の充実に取り組むとの話をされる。ニーズの掘り起こしや繋がっていない方をうまく繋げていくために検討していきたいと地区側の思いを話される。

- 令和 4 年 6 月 神崎学区社協執行役員会を受け、神崎学区社協側の思いの確認と江波地域包括支援センターとも情報共有。ふれあい神崎の活動について地域住民への周知について検討していくこととする。
- 令和 4 年 9 月 神崎学区社協執行役員会において、第 1 弾の取組みとして、気軽に相談できる場所があることを高齢者だけでなく子育て世帯にも認知してもらい、相談の定着化が進むことを期待し、神崎学区社協より、神崎学区社協の拠点である神崎会館にて「神崎学区健康フェア」開催の提案を受ける。
- 令和 4 年 10 月 神崎学区社協にて打合せを行う。神崎学区社協が主となり企画、運営する。



高齢者への健康相談については、県看護協会中支部に協力を、子育て相談コーナーについては中区地域支えあい課地区担当保健師が担当する。また、神崎学区内で柔道整復師として活動している方が以前から江波地域包括支援センターに地域貢献をしたいと相談をしており、今回の健康フェアに協力をしてもらう。

当日はふれあい神崎の相談コーナーも設け、参加者への周知もしっかりする。学区社協だけでなく、連合町内会、体協などの諸団体との連携した取組みということ地域団体連携支援基金を活用することが決まった。

- 令和 4 年 11 月 28 日 神崎健康フェア開催。

69 名参加。初めての取組みであったが、子育て世帯の参加が少なく、参加している方たちからはよい取組みをしているのもっと広報したらよいとの声があがった。広報媒体について世代別で検討していく。



現時点での到達点（結果・効果など）

- 「ふれあい神崎」の活性化に向けて、神崎学区社協として考え、動く地域力の高さを改めて認識することができた。

今後の展望など

- 引き続き、地域の中で困っている方がいないか掘り起こしについてどのような取組みをしていくのか検討していく。

生活支援コーディネーターの思い

これからも地域の思いに耳を傾け、実現できるようにコーディネートしていきたいです。川中



東区区域協議体

「ひがしおこのみネット」の取組

事例概要

第1回東区区域協議体で、各地（学）区社会福祉協議会の地域福祉推進委員を中心に「わが町自慢と、わが町にあったらいいなと思うこと」を協議した。そこから見える地域課題に対する、工夫や成功事例をもとに協議体で取組む内容を検討する。

事例における生活支援コーディネーターの役割

- 親しみやすさを感じてもらえるよう、東区区域協議体の愛称を募集（他会議との区別化）
- 見えた課題に対する工夫や成功事例をもとに、既にある活動の情報共有
- 先駆的な取組みを東区内の他地域に広める事を目的としたフィールドワークの調整



取組の背景・課題

- 令和4年8月に第1回区域協議体でグループワークを実施、地域課題の抽出を行った。
- 令和4年11月に第2回を開催し、地域課題に対する工夫や成功事例をもとに取組む内容を検討した。
- 区域協議体では、3カ年を1期と区切り、1年目は取組むテーマの決定、2年目は具体的な取組の検討と準備、3年目で社会資源の創出と取組の評価・振り返りというスケジュールを予定している。



取組の目的・ねらい

- 区域協議体の愛称を考えてもらうことで、協議体への愛着や自主性が生まれる。
- 第1回の会議で出た課題の中から、取組むテーマを絞る予定であったが、それぞれの課題が関連しあっていること、いずれの課題も優先度が高いことから、テーマを限定し過ぎず、課題に対する取組を検討する。
- 実際の活動を見学することで、我が事としてとらえやすくなる。また、机上で話すばかりではなく、活動の現場での新たな視点や気づきを得る。



第1回区域協議体の様子
参加者は35名でした。



内容・プロセス

- 令和4年4月、6月 事務局会議開催

東区厚生部地域支えあい課、地域包括支援センター、東区社協の事務局で協議体のイメージや参加者、第1回区域協議体内容について共有した。

● 令和4年8月 第1回区域協議体 開催

参加者の自己紹介と、協議体のイメージの共有、「わが町自慢と、わが町にあったらいいなと思うこと」をテーマにグループワークを実施し、地域課題の抽出を行った。

● 令和4年8月 区域協議体開催後にアンケート集計結果と愛称募集の案内を送付

たくさんの応募があり、25の愛称候補が挙がった。区域協議体への想いや展望が込められた名前数々に、メンバーの地元愛や協議体への期待・意気込みを感じた。

● 令和4年8月、10月 事務局会議開催

第1回区域協議体の振り返りと、第2回区域協議体について内容の共有をした。

● 令和4年10月 第2回区域協議体の開催案内と取組みたいテーマの投票用紙を送付

集まった票を集計した結果、どれも取組むべきテーマであり、課題も一つのテーマではなく複合的要素が多いことから、第1回で挙がった課題に対して工夫した取組や成功事例をもとに、フィールドワークを通して取組内容を検討する。

● 令和4年11月 第2回区域協議体 開催

区域協議体の愛称決定、課題に対する工夫や成功事例をもとにフィールドワーク先を検討した。



「わが町自慢と、あったらいいな」がたくさん出ました！



多数決により愛称
「ひがしおこのみネット」に
決定！



地域課題に対する工夫や
成功事例がたくさんでした！

現時点での到達点（結果・効果など）

- 東区区域協議体の愛称決定「ひがしおこのみネット」。参画者みんなで“お好み（自分たち仕様）”の形に仕上げていく会という意味が込められている。
- 地域課題に対する工夫や成功事例を共有し、フィールドワークや事例紹介を通して具体的な取組を検討する。

今後の展望など

- 来年度の部会設置に向けて、具体的な取組内容と取組むモデル地区を決定する。
- 町内会・自治会、地縁団体、NPO など、日常生活圏域での既存の活動団体の取組報告を聞き、それぞれが既に行っている活動で協力し合えることはないか考え、情報共有・意見交換を行う。



生活支援コーディネーターの思い

活動の報告を聞く「会議」でなく、お互いにざっくばらんに意見を出し合える「井戸端会議」のような雰囲気や進行を心がけ、参加者の皆さんが参加して良かったと思える協議体にしていきたいと思います。 佐々木

東区社会福祉協議会

新たな担い手との関わり ～「思い」を「形」に～

事例概要

「何かボランティア活動がしたい!」と東区社会福祉協議会(以下、東区社協)に連絡をいただいた A さん。生活支援体制整備事業担い手養成講座への参加を経て、新たな「通いの場」の立ち上げを検討中。生活支援コーディネーター(以下、SC)は講座終了後も継続して A さんとの相談を重ねて、「高齢者の生きがいづくり」を目的とした活動創出の支援をしている。

事例における生活支援コーディネーターの役割

- 既存の活動とのマッチング(つなぎ)のみにとどまらず、相談者の思いを実現させるための活動創出の支援を行う。
- 担い手養成講座参加者と講座終了後も継続的に関わり続ける。

取組の背景・課題

- 区社協に「何かボランティア活動がしたい」という相談が入ることはしばしばある。相談者の希望と既存の地域活動がちょうどよくマッチングする場合もあれば、しない場合もある。新しい取り組みを創出することも社協の仕事の一つ。とはいえ、「言うは易く行は難し」。地域活動への意欲を持って区社協に相談してくれた方に対して、できる限り応えられるよう、日頃から意識している。

取組の目的・ねらい

- 令和4年度の担い手養成講座には「活動体験」のプログラムも含まれていた。実際の活動と一緒に参加することで、A さんの人柄や得意なことなども知ることができるのではないかと考えた。
- 講座終了後も継続的に A さんとの話し合いを重ね、A さんの始めたい活動の実現に向けて一緒に考えていく。

現地での活動体験を含む講座のチラシ

大人のための社会参加と
生きがいづくり体験講座

人生の後半戦を自分らしく、生き生きと過ごすために、ご自身の社会参加と生きがいについて一緒に考えませんか？ みなさん、お気軽にご参加ください！

会場：東区総合福祉センター（広島市東区東区町 9-34）
時間：10:00～12:00
※17:00～18:00 18:00～19:30
参加費：無料
※高齢者いきいき活動ポイント事業の対象（1回1ポイント）

- 1/7 (金) ステキな大人の社会参加
社会参加を通して、なりたい自分になる！
一般社団法人リクルー地域福祉研究所 代表理事 丸山 達子 氏
- 5/17 (火) 生きがいづくりと助け合いゲーム体験
これから新たに訪れる生活って？？？体験から考える！
公益財団法人さわやか福祉財団 高橋 望 氏
- 5/27 (金) 交流会
お友達との交流を通して、社会参加と生きがいにつながる活動を見つけよう！
※ご希望を伺い、次回の活動体験先を調整します。
- 体験先で
異なる
- 6/24 (金) まとめ・振り返り
講座を振り返り、私にとつての社会参加と生きがいを考える！
社会福祉法人 広島市社会福祉協議会
会長 上野 正志 氏

共催：広島市二葉福祉センター・広島市東区社会福祉協議会
協力：広島地区社会福祉協議会・広島市社会福祉協議会・中山地区社会福祉協議会



IT サロンの活動を体験！



内容・プロセス

- 令和 3 年 12 月 A さんから東区社協に「何かボランティアがしたい」と電話がある。
当初はボランティアセンター担当職員が対応。お住まいの地域の地区社協に地域活動の担い手として紹介。併せてサポーター養成講座への参加を提案。
- 令和 4 年 1 月 全 5 回の連続講座『大人のための社会参加と生きがいづくり体験講座』の第 1 回に A さんが参加。SC はこの時初めて A さんと対面（※第 2 回以降の講座は、コロナの影響で令和 4 年度に延期となる）。
- 令和 4 年 6 月 A さん、諸事情により講座の第 2 回、第 3 回は不参加。第 4 回以降の講座受講について A さんの意向を聞くため個別面談を実施。ボランティアをしようと思った理由や Excel や日曜大工が得意であることを聞く。また DIY で建てた「秘密基地」の写真も見せいただく。「活動体験」は IT サロンを希望され、同月の活動に SC、他参加者と一緒に参加。
- 令和 4 年 7 月 A さんが「自分が参加している百歳体操のサロンでも IT サロンを始めたい」「音楽や園芸など幅広い趣味の活動ができる場も開設したい」と元クラシック歌手の友人と来所。これから始めたい活動についての思いを聞く。IT サロン開催については、「活動体験の報告書を作成しサロンのメンバーに供覧し提案した」と報告書を見せてくれる。3 人で協議した結果、まずは携帯電話ショッップに依頼し、出張スマホ講座を開催することから始めることになる。SC から携帯電話ショッップの出張講座の情報提供を行う。
- 令和 4 年 10 月 A さん「出張スマホ講座を 11 月から開催することが決まった」と来所。数日後、「参加希望者がいたため Excel 教室も始めることにした。自分が講師をする」と電話がある。
- 令和 4 年 11 月 A さんから「コロナ第 8 波の心配があるためスマホ出張講座を延期する。Excel 教室は少人数のため予定通り開催する」と電話がある。Excel 教室の活動開始。参加者各々が自分の PC を持参。しっかりサポートしながら進めていけるよう少人数からスタートした。

現時点での到達点（結果・効果など）

- A さんが中心となり、Excel 教室を開催するに至った。
A さんのやりたいことはまだまだあるが、まずはひとつ実現することができた。

今後の展望など

- スマホ出張講座の開催から IT サロンへの展開、高齢者の生きがいづくりのための活動創出など。



Excel 教室の様子。A さんの PC 画面を投影しながら進行！



生活支援コーディネーターの思い

最初の電話から約 1 年。まずはひとつ、A さんの「思い」が「形」になりました。「一緒に面白いことを考えよう！」と話してくれる A さんの気持ちに応えられるよう、既存の枠組にとらわれ過ぎず、一緒に考えていきたいと思います。萩原

南区区域協議体

～住民の求める活動を引き出すために～

事例概要

南区区域全体の協議体から、地域の実情に即した、より必要とされる支援・支えあい活動を生み出すために、地域包括支援センター（以下、包括）圏域ごとの協議体へと運営体制を変えた。宇品・似島包括圏域では、アンケート調査を行い、細かいニーズを拾っていったことで、それぞれの地区の課題解決に向けた話し合いが進んだ。

南区全体の区域協議体では、青崎地区の先駆的な集いの場「なだの朝市」を基本メンバーが視察したことによって、他の複数の地域でサロンが立ち上がった。

事例における生活支援コーディネーターの役割

- やってもらうという意識ではなく、包括・南区地域支えあい課、南区社会福祉協議会（以下、南区社協）と一緒にやるという思いで取り組む。
- 基本メンバーの入れ替わりや地区社会福祉協議会役員の交代などがあり、協議体に関わる全ての人の意識合わせを行い、体制を整えること。



取組の背景・課題

- 「協議体（助けあい活動を住民主体で創出すること）」の取り組みを住民目線で進めることの難しさ。
- 協議体で課題と感じていることと、地域住民が実際に課題と感じていることにずれが生じていること。



取組の目的・ねらい

- 活動が停滞するなかで、会議体にこだわらず、楽しく活動できる体験型の協議体を企画し、参加しやすくしたり、基本メンバーのモチベーションの維持を図る。
- 身近な成功体験や1つの実践体験を自信と原動力につなげ、新しい活動の創出につなげていく。



内容・プロセス

- 令和4年5月21日
令和4年度第1回区域協議体「なだの朝市」見学ツアー
- 令和4年12月19日
令和4年度第2回区域協議体実施予定

「なだの朝市」の様子



【大州包括圏域】

- ・生活支援サポーター養成講座（9/15, 10/22, 11/26）
- ・ボランティアバンク研修会（7/30）

【段原包括圏域】

- ・協議体進捗状況の共有と今後の取組についての話し合い(6/23)
- ・協議体基本メンバーの意向調査(7/20, 8/30)
- ・担い手育成(地域デビュー講座)についての話し合い(10/19)

【翠町包括圏域】

- ・デジタルディバイド解消のためのスマホ教室(4/27)
- ・協議体進捗状況の共有と今後の取組についての話し合い(6/1, 7/11)
- ・令和4年度第1回(通算3回目)包括圏域協議体実施予定(R5.1/18)

【仁保・楠那包括圏域】

- ・協議体についての意見交換会(7/22)

【宇品・似島包括圏域】

- ・協議体進捗状況の共有と今後の取組についての話し合い(6/8)
- ・「地域での支えあい活動について」のアンケート調査 実施と集計結果の共有(7月～)
- ・「地域での支えあい活動について」の意見交換会（9/11）
- ・令和4年度第1回(通算第2回)包括圏域協議体(10/26)

●その他

毎月、包括、南区地域支えあい課、南区社協で南区区域協議体担当者会議を定例開催し、各包括圏域の進捗状況等を共有している(コロナ禍においてもオンラインにて開催)。



「生活支援サポーター養成講座」の様子



「宇品・似島包括圏域協議体」グループワークの様子

現時点での到達点（結果・効果など）

- 何かが大きく変わったという目に見えるものはないが、地域での担い手養成講座の要望や基本メンバーが自主的に新たな通いの場を創設するなどの活動が生まれており、少しずつ意識は変わっていると実感できる。



新しく立ち上がったサロン

今後の展望など

- 支えあうことの大切さを、イメージではなく実感することで、気付きを共感に変えて担い手を増やしていきたい。



生活支援コーディネーターの思い

「言うは易く行ふは難し」で、各圏域の取組はすぐに成果につながるものではないですが、一步を踏み出した瞬間から見えない変化は起きていると信じて、地道にゆっくり進んでいきたいです。

黒瀬・泉

西区区域協議体

多世代交流の場づくり～担い手探し～②

事例概要

西区では、これまでの区域協議体の話し合いで「多世代交流の場づくり～担い手探し～」というテーマを決めた。このテーマから、コアメンバー（地域福祉推進委員・区内6地域包括支援センター・西区地域支えあい課・西区社会福祉協議会）と一緒に区内の多世代交流の場への見学ツアーを実施。その後、自分の地区の取組について改めて考え、多世代交流の場を作るにはどんな後押しや学びが必要か検討した。

事例における生活支援コーディネーターの役割

- コアメンバーとの多世代交流の場への見学ツアーを企画
- 既存の場を多世代交流の場にできないか、コアメンバーと一緒に検討
- コアメンバーからの意見を参考に多世代交流の場作りの学びの機会を設ける



取組の背景・課題

西区では、地域から「地域の若い人に地域活動に参加してもらいたい」、「子育て世代とのつながりが希薄だ」との声が挙がっているため、令和3年度の区域協議体で「多世代交流の場づくり～担い手探し～」というテーマを決め、協議体を進めている。テーマ決定後、区内で多世代交流の場として活動されている大芝地区「大芝にこにこ kitchen」と、庚午地区「cafebar & gallery かのえ」の事例発表を聞く場を設けた。

その後、事例発表を聞いた地域福祉推進委員から、「実際に多世代交流の場へ訪問してみたい」という声が挙がった。そのため、コアメンバーと一緒に事例発表いただいた多世代交流の場を見学し、取組のヒントを得る機会を設けた。そして、第4回の区域協議体では、グループワークにて多世代交流の場を作るには、どんな後押しや学びが必要かの意見を抽出し、その意見を参考に、第5回区域協議体では、コアメンバーに多世代交流の場作りの学びの機会を設けていくこととした。



取組の目的・ねらい

- 他地区の多世代交流の場を見学し、各地区への多世代交流の場を立ち上げるヒントにする。
- 既存の行事や取組が世代別ではなく、様々な世代が交流できるものにならないか考える。



第1回の見学ツアー庚午で開催！！
(cafebar & gallery かのえ)



第2回目は大芝地区で開催！！
(大芝にこにこ kitchen)

● 多世代交流の場見学ツアー開催のねらい

実際に身近にある多世代交流の場の見学を通して、コアメンバーに交流の場を自分の目で見て体感してもらい、多世代交流の場がどのような場か知ってもらう。そして自分の地区ではどんなことができそうか、検討してもらう。



内容・プロセス

- 令和4年 6月 庚午地区「cafebar & gallery かのえ」見学ツアー開催
- 令和4年 7月 大芝地区「大芝にここに kitchen」見学ツアー開催
庚午地区「cafebar & gallery かのえ」見学ツアー開催(2回目)
- 令和4年 8月 第4回区域協議体開催。見学ツアーの報告と参加者から感想を言っていた後、グループワークにより「各地区の今ある通いの場が多世代交流の場になるには、または新しい通いの場を作るにはどんな後押しや、学びが必要？」を検討。
- 令和4年 12月 第5回区域協議体開催。西区内の多世代交流の場の事例として「ワンダふるたパーク」の取組について話を聞く。

●第4回区域協議体のねらい

コアメンバーの方々には、事前に自分の地区にどのような交流の場があるか世代別にシートに記入いただき持参いただいた。グループは地域包括支援センター圏域毎とし、多世代交流の場作りにおいて、新しい交流の場を作るという考えだけではなく、既存の取組を合わせることで多世代交流の場ができないか、持参いただいたシートを参考に検討していく。

●第5回区域協議体のねらい

第4回区域協議体でのグループワークでの意見を参考に、中学生を担い手の中心に据えて多世代交流の場を立ち上げた「ワンダふるたパーク」の代表者等を講師に迎え、立ち上げまでの経緯や、子ども・親世代と一緒に地域活動へ参加できる取組を聞くことにより各地域の多世代交流の場作りのヒントを学んでもらう。



各グループで出た意見を発表！！
(第4回区域協議体)



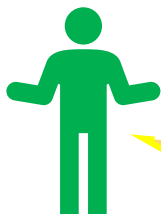
講師の話が多世代交流の場作りのヒントに！！
(第5回区域協議体)

現時点での到達点（結果・効果など）

- 多世代交流の場への見学ツアーの実施。
- 第4回区域協議体でのグループワークを通して、多世代交流の場をつくるためコアメンバーが学んでみたいことを、「人」、「事例・イベント」、「場所」にまとめた。
- 第5回区域協議体では、第4回区域協議体でのグループワークをまとめたものの中で、「人」、「事例・イベント」に焦点を当て、「ワンダふるたパーク」の代表者等を講師に迎え、多世代交流の場作りの学びの機会を設けた。

今後の展望など

- 第4回区域協議体のグループワークで出た意見をまとめて、令和5年度以降も協議体コアメンバーの多世代交流の場作りや担い手探しについての学びの機会に役立てる。
- 今後、より小地域で多世代交流の場を作っていくために、地域包括支援センター圏域ごとに西地域域支えあい課・地域包括支援センター・西区社会福祉協議会で情報共有を行う。
- 令和5年度以降は、いくつかの地区を対象に、多世代交流の場作りに向け実践を進めていく。



生活支援コーディネーターの思い

令和5年度以降は、小学校域単位で多世代交流の場作りをコアメンバーのみなさんと一緒に考えていきたいです。

吉村

生活支援実施団体とともに考える 地域で取組む移動支援

事例概要

★区域協議体を通じて「移動の課題を地域で取組む、許可・登録を要しない移動支援」について考え、各団体の実践や課題を共有する。

事例における生活支援コーディネーターの役割

- 団体や地域の課題を抽出及び共有
- 地域における生活支援サービス充実に向けての協議



取組の背景・課題

安佐南区区域協議体では、住民主体型生活支援訪問サービス実施 8 団体(令和 4 年 11 月現在)に参画していただき、団体の活動や地域の情報交換及び課題の抽出・共有を行っている。

令和 3 年度までに行った区域協議体において、移動支援を実施する上での課題や生活支援を実施して発生したごみの搬出に関わる車両の問題についての意見が挙がっていた。また地域住民からも通院やサロン参加のための移動支援、または付き添い支援を望む声がある。これらのことを受け、令和 4 年度第 1 回区域協議体では「移動の課題を地域で取組む、許可・登録を要しない移動支援」についての研修会及び情報交換を行った。



取組の目的・ねらい

- 地域で取組む移動支援について知っていただき、現在の各団体の実践と課題を共有する。
- 関係団体が参画し、連携の強化を図る。



内容・プロセス

- 日時: 令和 4 年 9 月 13 日(火) 10 時 00 分～12 時 15 分
- 出席者

- ・ 広島県移動サービスネットワーク
- ・ 住民主体型生活支援訪問サービス実施 8 団体
- ・ 安佐南区内 6 地域包括支援センター
- ・ 安佐南区地域支えあい課、市高齢福祉課
- ・ 市・区社会福祉協議会

● 内 容

◇講演:「住民互助による移動支援サービスの立ち上げ方」(広島県移動サービスネットワーク)

道路運送法や介護保険制度、許可・登録不要の運送について事例を含めご説明いただく。また、サービス実施に伴う車両や保険、制度や補助金に関して、地域の方々の思いを大切にしながら、地域・社協・行政などで話し合う場を持ち続けることの必要性を述べられた。



移動支援の研修

◇移動支援に関する意見交換

○住民主体型生活支援訪問サービス実施団体より報告・意見をいただく。

- ・住民同士で買い物や病院へ一緒に行く助け合いはある。個人的に買い物のお手伝いを行う時、店員との楽しそうなやりとりを見ると、ただ買って届けばいいというのではなく、ご本人が暮らしの一部として買い物に行くことも大切であると感じている。団体として組織的に、移動に関わる活動に取組まなければならないと思う。



各団体の取組や地域の課題を共有

- ・ボランティアの高齢化もあり、移動支援は命にも関わることで難しい。しかしタクシーに同乗しての付添いや荷物持ち、買い物代行などの外出支援は可能である。また、サロン参加への声かけ、一緒にウォーキングなども行うことができると思う。
- ・外出や移動について困っている人がいる以上、支援の必要性は感じる。
- ・移動支援の取組について、行政や企業とも一緒に考えていくことができればと思う。
- ・移動支援のニーズは感じており実施したいと思うが、万が一事故があった時の補償や責任の所在などの整理が難しい。その不安をどのように解消していけばいいのだろうか。
- ・現在移動支援を実施しているが、車両の確保や維持、運転者の確保に苦慮している。

現時点での到達点（結果・効果など）

- 広島県移動サービスネットワークの方々からも、「地域によって取組みが様々であるのは当然で、付添いなどの支援もとても大事である」という意見をいただいた。
- 移動支援の意義や実施する上での課題、またその他それぞれの地域で行う移動・外出に関わる支援の意義について情報共有をすることができた。

実施団体A	実施団体B	実施団体C	実施団体D
移動支援の意義や実施する上での課題、またその他それぞれの地域で行う移動・外出に関わる支援の意義について情報共有をすることができた。	移動支援の意義や実施する上での課題、またその他それぞれの地域で行う移動・外出に関わる支援の意義について情報共有をすることができた。	移動支援の意義や実施する上での課題、またその他それぞれの地域で行う移動・外出に関わる支援の意義について情報共有をすることができた。	移動支援の意義や実施する上での課題、またその他それぞれの地域で行う移動・外出に関わる支援の意義について情報共有をすることができた。

実施団体A	実施団体B	実施団体C	実施団体D
移動支援の意義や実施する上での課題、またその他それぞれの地域で行う移動・外出に関わる支援の意義について情報共有をすることができた。	移動支援の意義や実施する上での課題、またその他それぞれの地域で行う移動・外出に関わる支援の意義について情報共有をすることができた。	移動支援の意義や実施する上での課題、またその他それぞれの地域で行う移動・外出に関わる支援の意義について情報共有をすることができた。	移動支援の意義や実施する上での課題、またその他それぞれの地域で行う移動・外出に関わる支援の意義について情報共有をすることができた。

実施団体の移動に関わる取組
（当日資料より抜粋）

今後の展望など

当日の研修会では住民主体型生活支援訪問サービスとして実施する移動支援の説明をしていただいた。今後、実際に移動支援を行いたいという団体については、個別にお話を伺いながら立上げ支援や運営に伴う課題の解消を行っていきたい。

また、現在各団体で行っておられる付添い支援や買い物代行などの取組についても他の地域に共有するとともに、さらなる「あったらいいな」の実現に向けて考えたい。



生活支援コーディネーターの思い

今回は移動支援をテーマに取組や課題を伺いましたが、それ以外の困りごとも含め、各団体で地域住民の声に耳を傾けながら、それぞれの形で取組を続けておられます。

今後も皆さんとのつながりを大切にしながら、いいお話や悩み事の共有ができればと思います。

尾田

安佐南区社会福祉協議会

広島市住民主体型生活支援訪問サービス

「びしゃもん台絆くらぶ」支援調整会議の在り方について



支援調整会議の様子

事例概要

令和2年10月より毎月実施してきた支援調整会議の在り方について協議し、より意見交換ができ、負担のない会議の在り方について検討を行った。

事例における生活支援コーディネーターの役割

- 支援調整会議の課題の抽出及び共有
- 新しい会議体の創出

取組の背景

- 総合事業の中に位置づけられる広島市住民主体型生活支援訪問サービス実施団体「びしゃもん台絆くらぶ」の活動について情報共有を行い、その中で支援の際に気になる利用者について安佐・安佐南地域包括支援センター（以下、包括）と安佐南区社会福祉協議会（以下、区社協）を交えた三者で今後の支援方針の検討を行うことを目的に令和2年10月より実施。
- 支援調整会議にて支援、調整の振り返りを行うことで、お互いの活動を知ることができ、顔の見える関係づくりが可能となった。
- 令和3年度第2回安佐南区区域協議体で支援調整会議を住民主体団体と包括が連携する好事例として、「びしゃもん台絆くらぶ」に発表していただいた。



令和3年度第2回
安佐南区区域協議体

課題と取組の目的

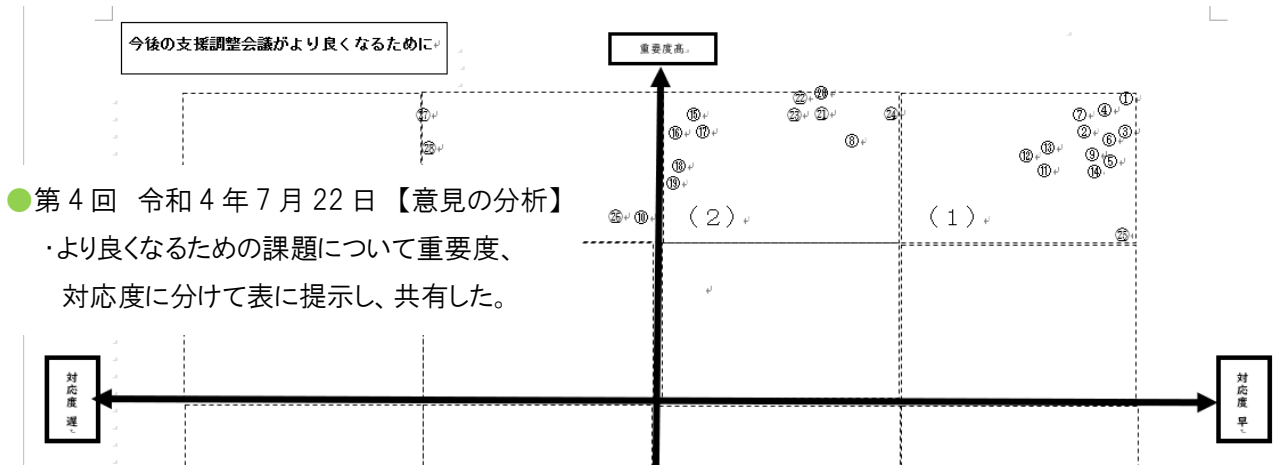
- 令和2年10月から支援調整会議を月1回開催していたが、令和4年度を迎えるにあたり、現場活動者の声・利用者のニーズ把握・忌憚のない意見交換・毎月の会議の負担感・困りごとの声を上げられない人への支援等の課題があると考え、会議の在り方について検討することにした。
- 出席者 びしゃもん台絆くらぶ 事務局長、毘沙門台学区社会福祉協議会 会長・副会長・事務局長
安佐・安佐南包括 センター長・担当保健師、市区社協 職員

内容・プロセス

- 第1回 令和4年4月22日【問題提起】
 - ・今後の支援調整会議の在り方について問題提起を行った。
 - ・アンケートから見てきた課題について、毎月行う支援調整会議後に協議することの了解を得た。
- 第2回 令和4年5月19日【振り返り】
 - ① 支援調整会議を行って良かったこと
 - ② 今後の支援調整会議がより良くなるために以上2点についてグループワークを行い、意見を出し合った。
- 第3回 令和4年6月19日【今後の在り方の意見出し】
 - ・5月19日の結果を踏まえ、良かったことについては共有し、より良くなるための意見について今後協議することとした。

1 会議の在り方、構成

- ① 絆くらぶの利用者の情報共有は現場スタッフが中心で少人数がよい。
- ② 上の人がいると話づらい部分があるかもしれない。
- ③ 現場レベルで話せる機会をもつ。
- ④ 実際ボランティア活動を行われている方の意見を聞く機会があるとよい。
- ⑤ 上役の人がいることで活発な意見が出にくいという傾向にある。
- ⑥ 絆くらぶスタッフの気づきや思いを共有する場がない。
- ⑦ 回数やメンバーの再検討。
- ⑧ 部会制度みたいなものがあれば良い。
- ⑨ これからの会議や研修の参加者を考える必要がある。
- ⑩ 必要があれば他の団体にも入ってもらって情報共有。



●第4回 令和4年7月22日【意見の分析】

- ・より良くなるための課題について重要度、対応度に分けて表に提示し、共有した。

●第5回 令和4年8月18日【今後の具体的な取組】

- ・優先度の高い課題について対策案を立て、解決に向けて取組むことを提案、全員一致で了承を得た。
- ＜取組むこと(優先順)＞

①スタッフ会議の設立 ②支援調整会議の内容変更 ③勉強会の定期開催

●第6回 令和4年9月15日【今後のあり方を共有】

- ・支援調整会議の在り方について協議した経緯、結果を報告し、総括を行った。
- ・結論:今までの支援調整会議を現場指向・管理の充実のために「スタッフ会議支援調整会議勉強会」を新たに設置することにした。

①課題を解決するために新たにスタッフ会議の設立。また、勉強会の実施支援調整会議の開催頻度の見直しを行った。

②今後のスケジュール

- ・スタッフ会議…令和4年10月から毎月1回
- ・支援調整会議…3～6か月に1回
- ・勉強会…3～6か月に1回(今年度1回目を令和4年10月に実施)

現時点での到達点（結果・効果など）

- スタッフ会議はボランティアコーディネーター数名、安佐・安佐南包括・生活支援コーディネーター1名ずつの少人数とし、より活動者の意見が出やすい会議とする(支援調整会議、勉強会がある月は兼ねる)。
- 勉強会は利用者に接する機会の多い活動者を主として、定期的に介護保険や包括についての勉強会を開催し、困りごとや変化に対応できる機会を増やす。
- 支援調整会議は従来のメンバーで行い、びしゃもん台絆くらぶで出た課題や支え合いについて協議する場とする。

今後の展望など

- 住民の困りごとと一番近くにいる活動者の声をスタッフ会議で共有することで住民の困りごとに寄り添い、支援調整会議を課題解決や情報共有の場にしていきたい。また定期的に振り返りを行い、会議の在り方について検討していく。



生活支援コーディネーターの思い

支援調整会議を1年半続けてきたことで顔の見える関係づくりが構築され、今回の課題について一緒に考えることができました。これからも連携を密にして「住んで良かった」と思える町のために住民の声に耳を傾けていければと思います。 角田

「 ケア 」を世の光に！プロジェクト始動 ～安佐北区区域協議体の取組（経過報告）～

事例概要

「老々介護、男性介護者が孤立しない・させない地域づくり」と「介護を必要としている方と介護者の間に生まれる意味と豊かさ“を”世の光に」していくための安佐北区区域協議体の取組。

事例における生活支援コーディネーターの役割

当事者や住民ニーズのアドボケイトと参画者及び関係機関等のネットワーキング役割、より多くの方が合意に至れるような計画立案（その過程で資源動員・開発役割も担う）及び各ステークホルダー間の調停役割等、ソーシャルワーカーとしての専門的役割を総合的に担うこと。

取組の背景・課題

1 取組の背景

令和3年4月に亀山地域で発生した老々介護夫婦の承諾殺人事件を契機として、令和3年度から安佐北区区域協議体（以下、区域協議体）において、「老々介護、男性介護者の社会的孤立を考える」をテーマに、令和3年度は2回のアンケートの実施、グループディスカッション、講座の実施等により、「老々介護、男性介護者が孤立しない・させない地域づくり」に向けた取組について検討してきた。令和4年度も引き続き同テーマを設定し、令和5年度から令和7年度を一期として区域協議体で実施していくための取組を“企画する年”として区域協議体を開催することを合意進めてきた。

2 参画者及び当事者等の関心

区域協議体では、参画者・当事者等の問題関心を①マクロレベル、②メゾレベル、③ミクロレベルという3つの実践次元ごとにクラスタリングし、それぞれの関心カテゴリーに応じた取組の検討を進めた。紙幅の都合もあるため、ここでは、全ての関心の基盤となる①のコアカテゴリーを参考程度に下記に箇条書きで記載する。

- (1) 行き過ぎた自立意識と恥の文化・強すぎる家族意識といった社会的価値意識の変革
- (2) 気軽に相談できる環境作りが必要
- (3) 我がごと意識の醸成を行うことが必要
- (4) 家族介護、老々介護に係る理解の促進が必要



取組の目的・ねらい

当初は「老々介護、男性介護者が孤立しない・させない地域」を目指して取組を検討してきた。しかし、当事者の方や参画者の方等から、それはあくまで前提条件であって、当事者の方への支援という方向の印象が強く、当事者の持つ能力の発露や社会的役割の確保といった視点が不足しているという意見を頂いた。意見を受けて、区域協議体が目指すべき方向性・理念について区域協議体で議論を積み重ねた。結果、「私」と「貴方」の間に生まれる人間的な“生の営みがケア”であるという認識の基、当初の目的も前提条件として置きながら、ケアの中で生成される「共に生きる意味やその豊かさ」を再発見し、社会へ再配分していくことによって、新たな個と社会の在り方を切り拓いていくことを究極的目的として設定することとした。目的を多くの人と共有するための合言葉として考案したのが、「「 ケア 」を世の光に！」である。これは、「私」と「貴方」という意味を含めたスペースを「ケア」の前後に挿入し、「 ケア 」とすることで、ケアの双方向性を表現し、「介護を必要としている方と介護者の間に生まれる意味と豊かさ“を”世の光に」していく中で新たな個と社会の在り方を変革していくことを目指す」という思いを端的に示す用語としてプロジェクト名にもしている。



内容・プロセス



1 取組の経過 ※令和4年度内の執筆時点までの主な経過を掲載

月日	主な出来事	内容や決定事項等
4月26日	区域協議体担当者等会議	利害調整会議(シナリオワークショップ)
5月10日	令和4年度第1回区域協議体	令和4年度の年次計画について合意。取組の理念的側面についてグループディスカッションの実施。
7月26日	令和4年度第1回区域協議体ワークショップ	これまでのアンケート結果や議論を踏まえて、参画者だけでなく関係者等が集まって広義のKJ法を用いたワークショップを実施。
8月3日	区域協議体担当者等会議	利害調整会議(シナリオワークショップ)
8月23日	令和4年度第2回区域協議体	コロナのため延期
10月11日	区域協議体担当者等会議	利害調整会議(シナリオワークショップ)
11月1日	令和4年度第2回区域協議体	プロジェクトの大枠・総合計画について合意。個別の事業について議論を開始。

2 プロジェクトの柱(事業群)

本プロジェクトは、これまでの議論やアンケート、ワークショップ等で蓄積してきたことを整理し、3つの柱(複数の個別事業を特定の方向性をもって体系化した事業群)を総合的に進めることを定めている。

(1) 第一の柱「ケア」を世の光に！キャンペーン

社会変革に向けて、不特定多数の価値意識へアプローチする、イベント(大会・お祭り)や講座等。

(2) 第二の柱 当事者とその家族の居場所づくり

介護を必要としている方とその家族が安心できる居場所づくりや息抜きができる企画等。

(3) 第三の柱 当事者とその家族が社会参加できる支援体制づくり

区内の大学や企業・個人ボランティア等と協力し、安佐北区お助け隊(区の生活支援ボランティア団体)の組織化等。

現時点での到達点(結果・効果など)

共通の地域課題を土台に、地域の多様な主体が議論を重ね、その蓄積から目指すべき方向性・理念や取組の企画等一定の枠組みについて具象化し、区域協議体として合意に至ることができた。

今後の展望など

住民座談会、市民会議、市民陪審、公開ワークショップ等の市民参加、参画のための手法を組み合わせながら、「地域の方による地域の方のための区域協議体」をオール安佐北で進めていけるように取組んでいきたいと考えている。



生活支援コーディネーターの思い

最も重要なことは当事者の方・住民の方にとっての“しあわせ”です。直接支援の第一線で矛盾葛藤しながらも日々の実践をしていらっしゃる地域の皆様、専門職の皆様が抱えている問題や課題が少しでも解決できたり日々の業務が楽になったりするような環境整備や後方支援の取組を区域協議体としてできたらなと思っています。内容の詳細は、加納までお問合せください。

加納

きっかけ講座～地域編～

「困った時はお互いさま！！
～声かけられ上手になってみませんか～」

事例概要

事業間連携により講座を開催し、参加者が現在行っている活動について付加価値に気づき、整理をしていただいたうえで、新たに「これなら（私も）できるかも！」ということを見つけていただく。挙げられた「できること」を整理し、まずは区域の動きとなるよう検討する。

事例における生活支援コーディネーターの役割

- 事業間連携を通して参加者の「できること」を活かした活動づくり
- 区域を活動範囲とした活動の担い手との関係構築、活動の展開

取組の背景・課題

昨年度より、安芸区社会福祉協議会（以下、区社協）のボランティア事業で行う「ボランティアきっかけ講座（全4回）」について、4回の講座をテーマ別に開催しており、テーマの1つを「地域編」として、ボランティア担当者と一緒に内容検討を行っている。

近年、数件ではあるが地域から「ちょっとした困りごと（生活支援等）」の相談が寄せられるが、現状として全地区社協域での生活支援のグループ立ち上げは難しい状況があり、対応時のつなぎ先が限られている背景があった。依頼者側からの選択肢を増やすためにも、まずは区域を活動範囲とする生活支援（助け合い）活動を行う体制づくりができないかと考えていた。ボランティア担当としては、車いす修理ボランティアの育成についてニーズを持っていたため講座の開催に至った。

＜講座開催に向けての生活支援コーディネーターとしての想い＞

地域ではステキな誇れる活動がたくさんあります。一方で、ステキな活動をされているけれど、現在の活動に悩まれることや、様々な要因からモチベーションが上がらないとの相談を受けることも多くあります。

本講座の参加者は、「新たに地域でボランティアを始めたい方」よりも、「普段から地域で何か活動を行っている方」が多い状況もあったため、まずは、普段行われている活動について見方を変えて付加価値に気づいていただく等、自分が行う活動を整理したうえで、新たに「これならできる！」ことを見つけていただきたいと思います。



講座の様子



※ 付加価値について・・・複数人でウォーキング等を行うことで健康増進につながると同時に「①見守り活動」「②見守られ活動」「③地域の防犯」「④健康づくり啓発」等、思いっただけで4つの意味を持つ活動になります。普段の活動を、角度を変えて見た時に、新たな気づきとして認識できる「活動が持つ異なる意味」を指しています。

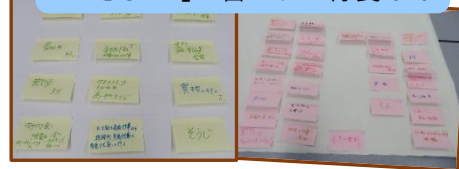
取組の目的・ねらい

- 普段行っている活動も、見方を変えて新たな活動の意義、付加価値に気づくことで、活動継続等へのモチベーションアップに繋がっていただく。
- 「これなら（自分にも）できる！」ことを見つけてもらい、見つけた内容を地域で展開していく方法を検討する。
- 区域を活動範囲とした活動ができる体制づくりを行い、先では地区社協域での活動が展開できるような働きかけを意識する。



内容・プロセス

グループワークで共有した
「できること」が書かれた付箋！！



- 地域で行われる活動は様々であり、活動のカタチも異なること、活動が自身にもたらすことについても講義をいただく。
- 講義のなかで、参加者が普段行われている活動について、異なる角度からその活動を見ることで、付加価値に気づいていただく機会を持つ。そのため、講師と打合せのうえ、講義の中で参加者が身近に感じる事例を用いて、新たな気づきを与える内容を盛り込んでいただく。
- ワークショップ「地域支え合い」大作戦！
個人ワークを行ったうえで、グループワークを行う。グループワークでは、参加者が想う「住みやすい地域」になるように、「これなら(自分にも)できる！」ことを書き出し、グループで共有する。



＜ワークショップを行ううえでの生活支援コーディネーターの想い＞

参加者の「できること」を紡ぎ、区域での活動を展開できるようにという想いがあったため、講師からグループワークに入りやすいように「個人ワーク+グループワーク」の助言と案をいただきました。個人ワークの時間で、自身で考える「住みやすい地域、住み続けるために必要なこと」について整理いただき、グループワークで「これならできる！と思われること」を共有することで、より具体的な自分にできる事を見つけていただきたい…と考えていました。

- グループワークでの内容、講座終了後のアンケートを基に、ステップアップ講座を検討中。

ワークショップ「地域支え合い」大作戦！の様子



講座の参加者には、サロンで世話人をされている方も多かったので、この機会を通して、サロンへボランティアグループであるロマンスグレーcaféさん招いてコーヒーを淹れていただく等、普段の活動でも繋がりができたらいいな…との思いから、本講座でロマンスグレーcaféさんにコーヒーを振る舞っていただきました。

現時点での到達点（結果・効果など）

- 講座終了後、(参加者から)普段の活動が持つ付加価値に気づけたことで、モチベーションアップにつながったとの声や、前向きな声が聴かれた。
- 「これならできる！」と挙げられた内容を整理し、「手芸」「草取り」等、いくつかの分類ができた。



＜今後についての生活支援コーディネーターの想い＞

今回、ボランティア担当者と一緒に講座の企画を行う中で、お互いが把握していたニーズのすり合わせができ、講座の方向性を検討・共有できたと感じています。互いが思い描いた内容とは、一部内容が異なることもありますが、「参加者の想いや『できること』をカタチに！！」という共通の目的があるため、引き続きステップアップ講座の検討を行っています。現在も、「区社協へ入る草取り等の依頼は年に数件であるため、草取り支援を行うグループでは、活動頻度が少なく、意欲の低下につながりかねない…。複数の活動が行えるグループにならないかな？」「手芸は、地域サロンで作れるものを教えたり、手作りの物を提供することは、受講生は興味がありそうだな…」等、一緒に想像を膨らませています！

今後の展望など

- きっかけ講座終了後のアンケートから参加者の「これならできる！」を整理し、座談会のような雰囲気でのステップアップ講座の開催を予定している。
- アンケートの集計結果からも、1つの目的を持つグループではなく、参加者の「できること」を活かし、いくつかの顔を持ったグループとなるよう検討を行っていく。



生活支援コーディネーターの思い

地域の皆様から活動内容の相談や活動が正しいのか等、確認をされることが多くありますが、本講座をとおして、普段から当然のこととして行われている活動も、付加価値に気づいていただくことで、モチベーションアップにつながるきっかけになることを、私自身再認識する機会になりました。

これからも、地域のみなさまの想いや「できること」を1つ1つ大切に紡いだ動きが展開できるように向き合っていきたいと思います。

岡本

佐伯区社会福祉協議会

佐伯区区域協議体

～佐伯区内の“ええところ”を共有しよう！～

事例概要

佐伯区区域協議体では、今後区域で多種多様な団体との協議の場づくりを目指し、まずは区内の既存の取組である、各地域で力を入れていること、“ええところ”の共有を行った。

事例における生活支援コーディネーターの役割

- 地域支え合いコーディネーター、佐伯区地域支えあい課との情報共有、意識合わせ、作戦会議。
- 区域協議体事務局として協議体開催準備・調整。
- 区域協議体の取組を周知、共有するための広報。



11/1 全体会の様子
各グループで出た意見を全員で共有中



取組の背景・課題

佐伯区区域協議体では、“誰もが住み慣れた地域で自分らしく暮らし続けることができる”ことを目指して、地域団体をはじめ、地域に関わる多様な団体と協働し、地域の実情に合わせた重層的な支えあい、助けあいの体制づくりを進めている。実施にあたっては、以下の4点を踏まえて取組む。

- ①すでに地域活動をしている人に向けてのアプローチ。
- ②まだ地域活動には関わっていない人に向けてのアプローチ。
- ③短期・中期・長期目標の設定。
- ④佐伯区区域協議体の取組を、広く多くの人に知ってもらうこと。



11/1 全体会の様子
グループごとに地域の取組を共有中

短期、中期目標を以下のように設定し、取組む予定としている。

- * 短期目標(令和3～5年度): 下記の「取組の目的・ねらい」のとおり。
- * 中期目標(令和6～8年度): 1つの地域(概ね小学校域)で解決できないことを佐伯区内の多種多様な団体と広く連携して考えられる場にしていく。



取組の目的・ねらい

- まずは佐伯区内の各地域の既存の取組、力を入れている取組、“ええところ”を共有する。
他地域の“ええところ”は持ち帰り、各地域で参考にできるようにする。
- 各地域で地域についての話し合いの場づくりを進められるようにする。



内容・プロセス

<短期目標を実現するための方法>

- ・「協議の場」と「啓発の場」の2本立てで実施する。
- ・まずは既存の会議等を活用し、取組を進めていく。



12/2 研修会 各地域の取組発表の様子
(左から、彩が丘学区、湯来地区、楽々園学区)

<令和4年度スケジュール>



今年度はここです！

		日 時	内 容
協議の場	①全体会	11/1(火) 14:00~16:00	地域の取組の情報共有、協議 *テーマ)自身の地域で力を入れていること
	②部 会	R5.1~2月頃 (予定)	テーマごとの情報共有、協議 *テーマ)私の地域のイチオシの居場所
啓発の場	③研修会	12/2(金) 10:00~12:00	各地域での協議の場づくりを進めるための研修および情報共有 *テーマ)福祉のまちづくりについて

現時点での到達点（結果・効果など）

- 協議の場である①全体会では、協議を通して、各地域で力を入れて取組んでいることについて共有、情報交換ができた。取組を始めようと思っていた地域、どう進めようか悩んでいた地域にとっても、取組のヒントを持ち帰っていただけたように思う。
- 啓発の場である③研修会では、各地域(概ね小学校域)で各種地域団体を交えて地域づくりについて話し合う1つの手段である、「福祉のまちづくりプラン」策定に関する取組を情報共有した。発表いただいた3地域は、地域の状況も異なり、それぞれの地域で地域づくりについて話し合い、考える意義があることが共有できたのではないと思う。

今後の展望など

- 来年度以降の協議テーマ、研修テーマについては、協議体参画者の意見を踏まえて設定し、引き続き、テーマに沿った“ええとこ”を区域で共有し、各地域での取組に活かせるようにする。

生活支援コーディネーターの思い



私たちが地域にお邪魔する時、地域の皆さんから、地域づくりへの熱い思い、工夫されている取組など、たくさんの“ええとこ”を教えていただく機会があります。そんな地域の“ええとこ”はもちろん、将来的には区内の多種多様な団体も交え、それぞれの“ええとこ”をつないでいけるような区域協議体になるよう、引き続き、あせらず、あわてず、あきらめず、取組んでいきます。

小澤・稲田

“今だからこそできる” 広島市における 生活支援体制整備事業の推進

事例概要

事業開始から数年が経過し、それぞれの担当者（地域包括支援センター・行政・市区社会福祉協議会）が不安や悩みを抱え、地域支援を行っている現状がある。こういった課題を各担当者がそれぞれの立場から知恵を出し合い、改善につながるようアプローチしている実践を報告する。

事例における生活支援コーディネーターの役割

- それぞれの担当者の課題や想い等を表出・意見交換できる場づくり。
- 各担当者から出されたニーズ・アイデアを基に、研修会や意見交換を企画することで、自分事として捉えられるきっかけを増やし、各担当者及び各組織における事業理解やスキルアップにつなげていく。

取組の背景・課題

- 平成 29 年度に第 1 層生活支援コーディネーター（以下、SC）が市・区社会福祉協議会（以下、社協）へ配置され、平成 30 年に各地域包括支援センター（以下、包括）に第 2 層 SC が配置された。コロナ禍もあり、地域のつながりの重要性を再認識する中で、より一層の生活支援体制整備事業（以下、体制整備事業）の推進が必要となっている。
- 現状の体制整備事業の課題として、事業の理解（周知）不足や位置づけの難しさから、SC が迷いながら、地域支援を行っている状況がある。また、第 1 層 SC（社協）と第 2 層 SC（包括）が別組織故の連携の難しさが声として上がっていた。
- 広島県が開催する SC 養成研修はあるが、広島市ならではの事業の位置付けとなっている部分もあるため、広島市独自の内容での研修会を望む声が多くあった。

取組の目的・ねらい

- SC（第1層・第2層）が、迷いなく地域支援できる体制を整えるための基盤づくりとして、各関係機関において事業理解や共通認識を深める場づくりとする。
- 事業推進のための課題などを、担当者それぞれが自分事で考え、ボトムアップで改善していけるよう、それぞれの不安や想い、アイデアを“共感”できる場を創出し、連帯意識の醸成につなげる。
- それらを蓄積していくことで、必要とされる事業の見直しの働きかけにつなげる。

内容・プロセス

●令和4年 1 月 27 日 体制整備事業意見交換会

体制整備事業における課題について、改善に向けたアプローチが必要との思いが行政・社協担当者間で一致。各担当者（包括・行政・社協）数名と有識者（ご近所福祉クリエイター酒井保氏他）を交えた意見交換会を開催。

→体制整備事業における課題を共有し、根本的な原因として、包括・行政・社協の連携が不足しているとの意見あり。酒井氏から他市町の体制整備事業で実施されているワーキングを広島市でも実践してみてはどうかとの提案あり。→開催してみることに・・・！

今さらでなく、
今だからできること！！



ワーキングメンバー
・行政（高齢福祉課）
・社協（市区 SC）
・包括（地域支え合い C）

充実した地域づくりを実践するために必要なスキル・知識や連携方法等を、それぞれの事業担当者（行政・包括・社協）の視点から前向きな意見を出し合い、今必要な研修会や意見交換の場の検討を行う場

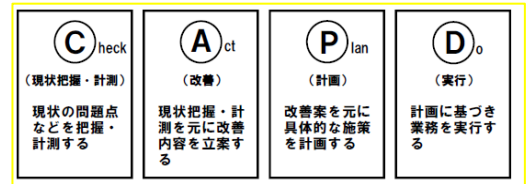
check

●令和4年2月及び4月 体制整備事業研修会等ワーキング①②

→各担当者が抱える課題や想いについて意見出し。連携不足や事業の理解不足等の課題から必要なアプローチを見立て、実践仮説を共有した。

→ワーキングメンバーだけでなく、担当者一人一人に自分事として体制整備事業を捉えてもらう必要があるため、全担当者へのアプローチとして、担当者アンケート及び意見交換会を計画。

★CAPDo（キャップ・ドウ）を用いて、計画的に展開。



●令和4年5月17日 令和4年度第1回地域の支え合いを広げるための勉強会

→事業理解が不十分との意見があることから、体制整備事業全般についての事業説明。特に新規担当者へのフォローを意識。（講師：さわやか福祉財団高橋氏）

→区独自で、体制整備事業に関する課題や想いをアンケート等で抽出し、区内の包括職員に向けた体制整備事業の研修会を開催する西区の実践について共有。

→研修会ワーキングの実施報告（目的・展開含む）を実施。今後、定期的に開催していくことを共有。

●令和4年8月中 体制整備事業担当者アンケート（対象：包括・行政・社協の各事業担当者）

→西区の取組を参考にし、事業の課題やそれぞれの担当者に対して抱えているもやもや、現状を打開する改善案等を聴取。

前向きに連携するために、まずは臆を出す！

●令和4年9月26日 体制整備事業研修会等ワーキング③

→アンケートの中間報告及び今後の展開（意見交換・勉強会など）を共有。

●令和4年9月29日 令和4年度第1回広島市生活支援体制整備事業市域協議体

→地域の困りごとと支援の実態共有の他、地域の支え合いを広げるための勉強会や研修会ワーキング等について活動報告。



研修会ワーキングの様子

act

●令和4年10月26日 事業担当者意見交換会

→アンケートで抽出した課題やそれぞれへのもやもや等をそのままにせず、前向きな改善に変換できるよう意見交換会を実施。現状の改善のために必要なアプローチを共有した。

挙げられた改善案は大きく分けて3つ！

- 個人：スキルアップのための研修会等
- 組織：事業理解のための研修会等
- 行政：事業の位置づけの見直し等

plan

●令和4年11月28日 令和4年度第2回地域の支え合いを広げるための勉強会

→担当者アンケートで多く挙げられていた体制整備事業における高齢者地域支え合い事業の位置付けについて行政から説明。第2層 SC の実践報告を通じ、地域支援において心掛けていること等を共有した。

do

現時点での到達点（結果・効果など）

- 各担当者の思いや考えを共有する場を設けたことで、「自分だけが不安なのではない」「みんな頑張っている」など、担当者同士の共感が進み、前向きに事業を捉える担当者が増えた。
- 担当者同士の共感や事業理解が進んだことで、共通認識と連帯意識の強化につながった。

今後の展望など

- 引き続き、担当者から出た「声」を大切に、担当課と協力しながら勉強会等の共感の場の計画をしていく。スモールステップでは【1層 SC と 2層 SC の連携事例の共有】、【事業担当者以外にも体制整備事業を理解してもらうための働きかけ】【研修会等への参加がなかなか得られない担当者への働きかけ】等をテーマとしていく。

生活支援コーディネーターの思い

事業開始から数年が経過しましたが、現状の課題の打破のために「今さら」ではなく、「今だからできる」と捉えて、研修会ワーキングの声掛けをさせていただき、いろんな想いやアイデアの共有ができています。勉強会等の開催で、さらに共感が拡大し、連携した地域支援につながっていると感じています。我々地域を支援する専門職が同じ目的意識を持ってこそ、充実した地域づくりにつながるため、一緒に学び、共感を持つ場づくりはとても大事であることを再認識しました。

箱崎



広島市社会福祉協議会

もったいないネットワークの設立

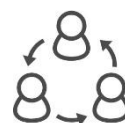
～人と人、物と人、思いと思いをつなげる協働の取組～

事例概要

広島市生活支援体制整備事業市域協議体（以下、市域協議体）のつながりから、「もったいない」をテーマに団体や企業が協働して取組む「もったいないネットワーク」を設立。「もったいない」から発生する課題を人と人、物と人、思いと思いをつないで、解決に向けて取組んでいる事例を紹介する。

事例における生活支援コーディネーターの役割

- 地域の課題に気づき、同じ思いを持つ団体等をつなぎ、組織化する。
- 関係団体の“できたらいいな”を集約・整理し、解決に向けた協議の場を設ける、また、解決に向けた取組を進める。



取組の背景・課題



- 広島市社会福祉協議会（以下、市社協）では、これまでの相談の中で、多くの食品を必要とする人や団体とつながってきた。その一方で、SDGs の取組もあってか企業や団体から「食品や物品を提供したい」という声も多く寄せられている。しかし、市社協として、「受け取り、保管・管理し、必要な団体や世帯に届く仕組み」が十分でないことから寄贈をお断りすることがあり、市社協職員として、「もったいない」、「何とかならないか」、という気持ちがあった。
- 平成 31 年度の市域協議体では(株)セブン-イレブン・ジャパン（以下、セブン）から、商品寄贈による地域貢献活動に関する協定書の締結の話もいただいたが、上記理由から実現には至らなかった。
- もやもやとした気持ちを抱える中、市域協議体のつながり等から、何かあれば市社協に相談してみようという団体もでてきたこともあり、「もったいない」、「何とかならないか」と思っている団体は本会以外にもあり、市社協だけではできなくても様々な団体等と協力し合うことができれば、何か取組ができるのではないかと感じるようになった。さらには、これまでの関わりの中から同じ思いのありそうな人の顔が具体的に浮かぶようになってきた。



取組の目的・ねらい

- 「もったいない」から発生する課題に対し、人と人、物と人、思いと思いをつなげる協働の実践を通して、気づき、考え、取組につなげられる支え合いのまちを目指す。
 - ・「もったいない」(もの)と「人」がつながる仕組づくりを行う。
 - ・「もったいない」に関連する社会的課題に気づき、行動を起こす人を増やす。

＜キーワード＞ 仕組づくり、人材育成、活動支援、情報発信



第 1 回目会議の様子



内容・プロセス

第2回目会議の様子



- 令和3年10月 市社協内で課を横断したチームの結成。
- 令和3年11月 声かけ先の団体へ個別に取組に対する思いや趣旨を説明し、賛同を得る。

＜参画団体:6 団体＞

(社福)正仁会あいあいねっとフードバンク広島、NPO 法人広島こども食堂支援センター、
NPO 法人ひろしま NPO センター、JA 広島市、広島県生活協同組合連合会、
(株)セブン-イレブン・ジャパン

- 令和3年12月24日(金)第1回「もったいない」をつないでいく会議の開催。
・食品や物品の受領から受渡しに関する各団体の現状と課題を共有。
→ 場所、人、お金の課題があり、取組や課題の啓発が必要であることが共有できた。
- 令和4年5月25日(水)第2回「もったいない」をつないでいく会議の開催(会場とオンライン)。
・ネットワークのあり方検討、キックオフイベントの検討、セブンとの協定締結に向けた協議。
→ ネットワークのビジョンの共通認識が図れた。
- 令和4年9月15日(水)第3回「もったいない」をつないでいく会議の開催(会場とオンライン)。
・「もったいない」の問題構造を共有、セブンとの協定締結及びキックオフイベントの検討。
→ 問題構造を共有することでネットワークの目的が明確になった。



現時点での到達点 (結果・効果など)

- ネットワークを活用して必要な団体や世帯に呼びかけができるようになったことで、企業等から受けた寄贈物品をこれまで行き届かなかった先にもお届けできるようになった。
- セブンとの協定書締結に向けて協議・準備を進めることができている(令和5年3月締結予定)。
- 参画団体との個のつながりもより密になり、新たな協働の取組が生まれた。「もったいない」に関することだけでなく、生活支援体制整備と直結する認知症サポーター養成講座の話もできている。

(一例) JA 広島市との取組



レディースクラブのみなさんと集まった食品

- ① レディースクラブで実施されたフードドライブへの協力。
→ 寄贈食品は、広島こども食堂支援センターにお届け。
- ② 農産物品評会における農産物を地域で必要としている団体に寄贈いただく(東区・安佐南区・佐伯区)。
- ③ 地域で開催される認知症サポーター養成講座に JA 職員も参加し、一緒に学ぶ場に向けて協議中。

今後の展望など

- 「もったいない」、「何とかしたい」という声は市社協にもたくさん入っている。ネットワークを充実させる仕組みを参画団体と検討し、より多くの必要としている団体等へ届けられるようにしていきたい。
- ネットワークを活かし、生活支援体制整備事業における取組にも還元していきたい。

生活支援コーディネーターの思い

私たち生活支援コーディネーターは「つくる・はぐくむ・つなげる」を合言葉に活動しています。この取組は市域協議体のつながりから生まれ、様々な団体等の思いをはぐくみ、つなげ、新たなネットワークを設立した、まさに合言葉どおりの活動だと感じています。地域の“あったらいいな”を一つでも多く形にしていくなために、今後参画団体のみなさんと一緒に、このネットワークをより充実させていきたいと思っています。

藤本



《区社会福祉協議会や地区社会福祉協議会の取組紹介》

前ページまでの《生活支援コーディネーター実践事例》とは別に、区社会福祉協議会や地区社会福祉協議会での取組を3事例、紹介します！

生活支援コーディネーターとして、地域活動への参加のきっかけづくりや、地域のみなさんの「できたらいいな」、「こんなふうになったらいいな」を応援しています。

また、年4回程度、『ひろしまええとこ通信』を発行し、各地域で実践されている『ええとこ』を広くご紹介しています。「うちの地域ではこんな活動しとるよ！」「気になる人と工夫してつながるようにしとるよ！」等、地域活動の耳寄りな情報を定期的に発信していくことで、「ひろしまのええとこ」をみんなで共有できる情報紙を目指しています。

これまで発行した『ひろしまのええとこ通信』は、広島市社会福祉協議会のホームページからダウンロードできますので、ぜひご覧ください。そして、耳寄り情報を区・市社会福祉協議会に配置されている生活支援コーディネーターへ教えてください。



佐伯区社会福祉協議会

地域活動への参加のきっかけづくり ～ふらっと、かようワークショップ～

地域活動の担い手不足と「何かしたいと思っているけど、何をしたらいいのかわからない」人がつながるきっかけに！

地区社会福祉協議会の役員やふれあい・いきいきサロンの世話人をはじめ、地域活動をしている方からは、「地域活動の担い手がいらない」、「役員が高齢化している」との声が多く聞かれます。

一方で、「何かしたいと思っているけど、何をしたらいいかわからない」、「地域活動やボランティアに関心はあるけど、どうしたらいいのかわからない」という思いを持つ人が地域にはおられると思います。

そんな思いを持っている人とつながるきっかけとして、「まずは佐伯区社会福祉協議会とつながる人を増やそう！」、「関心のあることをきっかけとして、地域活動に参加するきっかけになったらいいな」、という思いで、『ふらっと、かようワークショップ』を企画しました。

令和4年度の『ふらっと、かようワークショップ』

開催日は、第3火曜日 13時30分からで、前期（6～8月）は“防災”をテーマに3回、後期（10～12月）は“SDGs”をテーマに3回、毎回違う内容で開催しました。いずれか1回のみの参加もできます。延べ120人以上の方に参加いただき、今年度の締めには、同窓会を兼ねてまとめの会を予定しています。

『ふらっと、かようワークショップ』では、ふだんのくらしや地域活動に活かせる様々なトピックを取り上げています。今後も社会福祉協議会を知っていただくとともに、地域に住む自分たちにできることは何かということを考えてもらえるきっかけづくりができるよう、取組んでいきたいと思っています。（小澤、稲田）

参加者募集！

ふらっと、かようワークショップ

毎日の暮らしやせつと暮らすこととを体験してみませんか。
まずは、火曜日に、お気軽にふらっとから始めてみましょう。

第1期

「まずは健康づくりから
ウォーキング体験」

日時：令和4年10月11日（火）
13:30～15:00

第2期

「SDGsって何？
SDGs体験ゲームをやってみよう」

日時：令和4年11月8日（火）
13:30～15:30

第3期

「サロンの活用
美味しいお茶をいれるコツ」

日時：令和4年12月3日（火）
13:30～15:00

会場 佐伯区役所別館（広島市佐伯区海老園1-4-5）

対象者 佐伯区に在住、通勤、通学している地域活動に関心のある人

定員 各回20名（先着順）

参加費 無料

申込方法 各回開催日の前日までに、電話、FAX、Eメール、申込フォームにて必要事項をご連絡ください。

申込先

- ※ワークショップは「高齢者いざいざポイント1P」の付帯となります。
- ※連絡先ではありませんので、ご希望の日に申し込んでください。
- ※新型コロナウイルス感染症の拡大状況によっては、延期または中止となる場合がありますので、ご了承ください。

参加申込書、申込フォームは裏面に

ふらっと、かようワークショップ（後期）チラシ

南区社会福祉協議会

健康フェアの開催

～地域の声に寄り添った地域づくりを目指して～

サロン代表者から、「サロンで行っている健康体操の内容についてアドバイスしてほしい。」という声をいただいたことがきっかけで、社会貢献の申し入れをいただいた企業を紹介し、健康フェアの開催につながりました。

健康フェア当日は、医師、看護師、薬剤師、理学療法士、栄養士の方に体操や健康についての相談をしたり、体組成計や血圧計などを用いて健康チェックをしたり、ミニ健康講座を受講したりと、盛りだくさんな内容となりました。参加者からは、「個別でゆっくり健康相談ができる

機会はなかなかないので、今回のようなフェアはありがたい。」や「盛りだくさんな内容で楽しかった。」という声をいただきました。

企業の方は、健康フェアの取り組みをほかのサロンなどへも広げていきたいということだったので、社会資源のひとつとして活用していければと思います。

今後も、地域の方の声に寄り添い、一緒に考えながら、地域づくりのお手伝いができるよう日々精進していきたいです。 (泉)



「ミニ健康講座」の様子



「健康チェック」の様子

西区社会福祉協議会

子ども達と共に未来を描く！

～井口地区龍神山壁画プロジェクト～

令和4年8月28日(日)井口地区社会福祉協議会主催「龍神山壁画プロジェクト意見交換会」が開催されました。これは「地区社協地域団体連携支援基金」を活用したプロジェクトです。

暗くてちょっとこわいね

「経年劣化の激しい龍神山にかかる壁画を新しくしたい」という地域の方々の声があり、井口中学校美術部へ相談をしました。美術部部員全員でワンチームとなり、夏休み期間中にコンペ形式で決定した図案を基に、1枚の壁画制作に取り掛かりました。

壁画には井口地区への思いが込められており、井口のいいところがたくさんつまっています。



井口のいいところ♪アイデアいっぱい！

井口がこんなまちになったらいいな

いよいよ意見交換会当日。壁画制作までの工程を動画にまとめ、皆で鑑賞。その後、皆で「井口がこんなまちになったらいいな」を美術部部員の皆さん、井口地区自主防犯連合会、井口地区青少年健全育成協議会の皆さんと一緒に意見交換会を行いました。

「安心して暮らせるまちに」「龍神山サイレン跡にブランコを設置する」「井口に温泉を掘り当てる」など、中学生からは夢いっぱいのアイデアがたくさん出ました。そして完成お披露目をみんなで喜び合いました。

子ども達が帰ってきたいと思えるまちに

今回の意見交換会を通して、子ども達はよく地域のことを見ていると実感しました。大人も子どももみんなが暮らしやすく、いつまでも大好きな井口であるよう、今後もお手伝いしていく予定です。 (三角)



みんなで新・壁画の前で集合写真♪パチリ

令和４年度

広島市第１層生活支援コーディネーター実践事例集

発行者 社会福祉法人広島市社会福祉協議会
〒732-0822 広島市南区松原町５番１号
広島市総合福祉センター（BIGFRONT ひろしま）
TEL 082-236-6172 FAX 082-264-6413
発行月 令和５年４月